

授業で学ぶ「川の防災」～命を守る行動は「僕たち」が考えるぞ！

出前講座だけに頼らずに防災学習を学ぶ試みとして、児童自ら考える防災授業が実施されました。1時間目に基礎学習、2時間目は先生からのお題をもとに班別討議を行い、事前の防災行動等について発表しました。

児童らは、5学年時に川のはたらき等の勉強しています。今回の発表では「①情報を入手する」、「②入手した情報をもとに起こす行動」、「③災害時に行動するために普段からやれること」にまとめられるなど、継続することで防災への意識高揚が図られてきていると実感しました。

- ・実施日 平成29年11月22日（水）
標茶小学校（第6学年）

【川の防災学習】※今回の基本セット

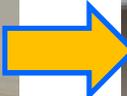
1時間目

- ・大雨や災害時の社会（国・道や市町村等）の役割を学ぶ
- ・大雨時にメディア等から得られる情報の意味を学ぶ

2時間目

- ・台風上陸等を想定した班別討議（アクティブラーニング）
- ・とりまとめ発表

今日の授業のテーマ
「超大型台風が道東地方を
通過する予報！」
学校は臨時休校、家族も不在、
家には1人！さあどうする？



自然災害から命を守るためには幼少期からの防災教育が重要であり、災害対応の実務を担う釧路開発建設部では、学校教育における川の防災教育の支援を積極的に行っています。